

平成22年度子ども読書活動に関するアンケート【第一回調査集計結果】

1 調査の目的

東松島市の未就学児の保護者、児童生徒及びその保護者の傾向を調査し、「東松島市子どもの読書活動推進計画」策定の基礎資料とするため実施したもの。

2 調査対象

(1)未就学児の保護者(市内保育所・幼稚園)と、子育て支援センター・図書館などにアンケート用紙を設置して実施

(2)小中学校においては市内14校(小学校10校、中学校4校)の全児童・生徒・保護者を対象に実施
(注)宮城県では、小中学校・高等学校のみの調査

3 実施期間

第1回目は平成22年5月現在のことについて、6月11日～6月22日にかけて調査を行った。

第2回目は平成22年10月現在のことについて、10月25日～11月5日にかけて調査を行った。

4 条件

【第1回目】

読書状況が分かるように、宮城県を参考に行った。

小中学生においては、例年5月に行われている「学校読書調査」(毎日新聞社、社団法人全国学校図書館協議会)、宮城県の「子ども読書活動に関するアンケート」と同じ、5月の読書状況についての調査を行った。

成人については、「読書世論調査」(毎日新聞)、宮城県の「子ども読書活動に関するアンケート」を参考とした。

未就学児については宮城県では未調査なので、『「ミーツ」読み聞かせレポート2009』(日本公文教育研究会)の調査結果の一部を参考とした。

【第2回目】

第1回目と比較するために行った。2回目の集計結果の内容等については【第二回調査集計結果】参照のこと。

5 回答状況 1回目【全体 3,265件(有効回答 3,221件)】 2回目【全体 3,745件】

未就学児	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	保護者
人口	337人	377人	427人	386人	382人	405人	397人	
1回目回答数	54人	96人	133人	117人	174人	155人	70人	577人
割合	16%	25%	31%	30%	46%	38%	18%	
2回目回答数	7人	35人	49人	49人	75人	97人	73人	385人
割合	2%	9%	11%	13%	20%	24%	18%	

小学校		1年	2年	3年	4年	5年	6年	性別	男	女	有効
1回目	件数	317人	306人	318人	316人	272人	336人	件数	904人	961人	1,865人
	割合	74%	72%	74%	73%	60%	77%	割合	66%	77%	71%
2回目	件数	312人	366人	387人	410人	409人	399人	件数	1,185人	1,098人	2,283人
	割合	72%	86%	89%	95%	90%	92%	割合	87%	88%	87%

中学校		1年	2年	3年	性別	男	女	有効
1回目	件数	227人	341人	214人	件数	328人	451人	779人
	割合	56%	73%	50%	割合	51%	68%	60%
2回目	件数	354人	362人	361人	件数	532人	545人	1,077人
	割合	87%	78%	85%	割合	83%	83%	83%

小中学校回答状況

東松島市【1回目】2,688/3,913 平均回収率 69% 【2回目】3,360/3,913 平均回収率86%

宮城県 平均回収率 81%

【第1回目】

県内と本市の回答率だけを見ていくと、本市においては全体的に低い回答率となっている。また、中学生の回答率が60%台、小学生の回答率が5年生を除いて70%台の回答率となった。全体的に性別では女子の回答率が高い状態となった。

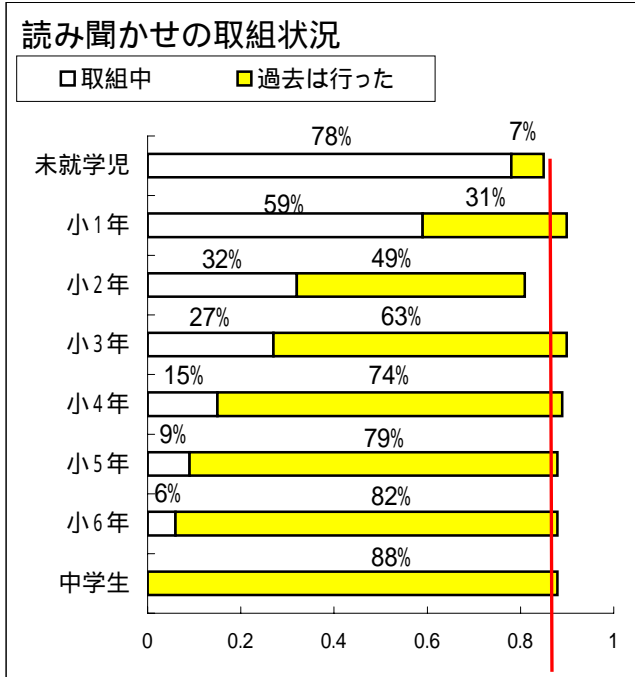
【第2回目】

今回は、児童生徒の読書環境状況に絞込み、保護者の記入欄はなくした。結果平均回収率が86%となった。

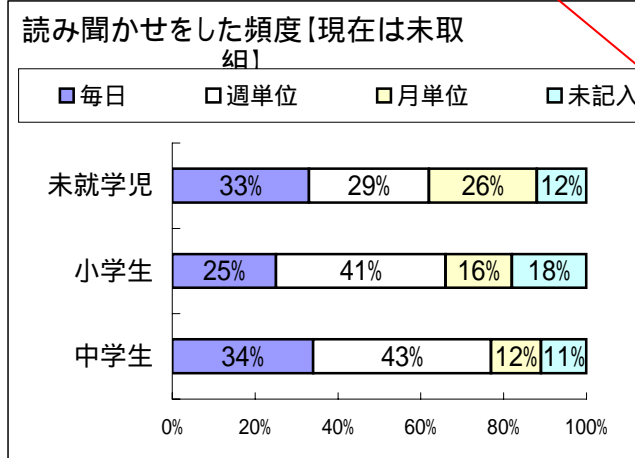
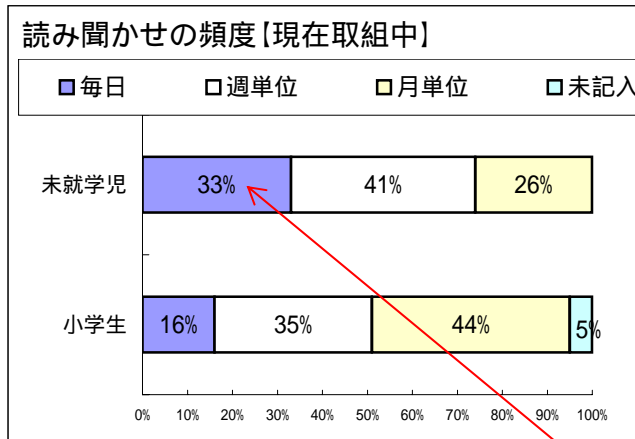
小中学校別の回答数は、無効分も含めての数字。学年・性別については有効(学年・性別・白紙回答は除く)のみの集計とした。

6 読書活動の状況について

(1) 子どもの読書活動(読み聞かせ)の状況について

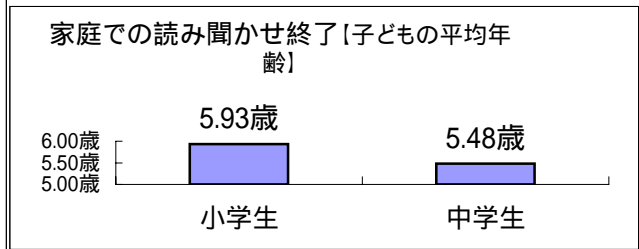


上記のグラフの赤の縦線は、未就学児の読み聞かせをしている・過去に行った合計平均数値(85%)。小学2年を除いて現在の未就学児の家庭において、小学2年を除いて89%に対し4%低い取組の結果がでた。

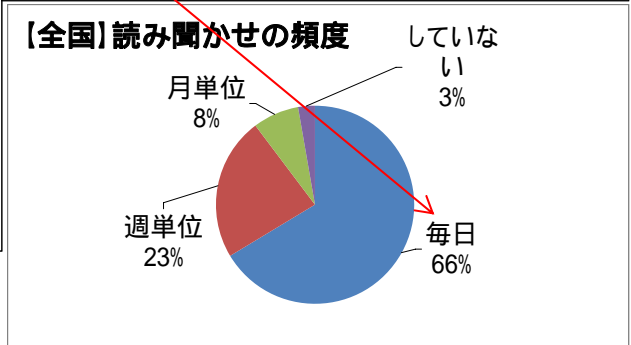
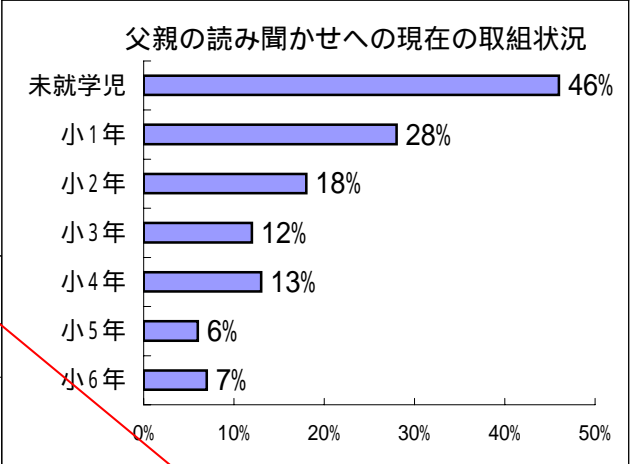
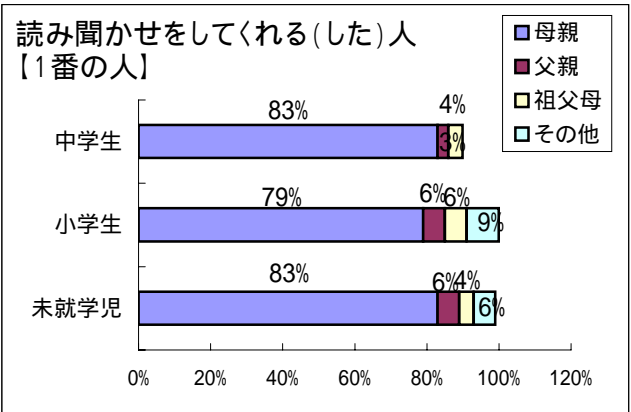


読み聞かせをしている頻度において、全国と比較して、週単位、月単位で取組んでいる人は上回った結果となり、家庭での読み聞かせの環境作りが課題と考えられる。

保護者による読み聞かせ(間接読書)においては、未就学児が多く、小学生では全体で25%で行われ、学年を追うごとに減少結果となった。また、未就学児において読み聞かせをしたと回答者においては、平均3.3歳の結果となり、最小年齢では2歳、最長で6歳の回答があった。

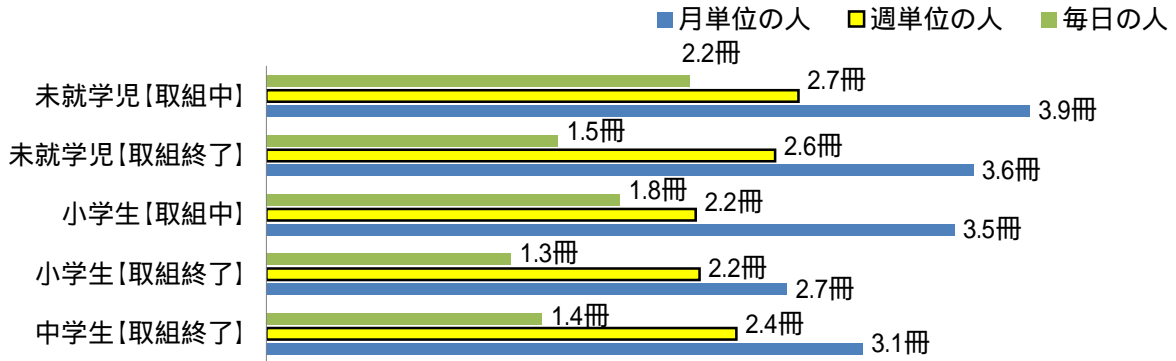


下記のグラフを見て分かるように、家庭での読み聞かせにおいて母親が1位を占めている。一方で、2位では父親が、中学生【かつて】が31%、小学生【かつても含む】33%、未就学児42%の結果となり、若い世代で、父親が読み聞かせに参加していることがわかる。

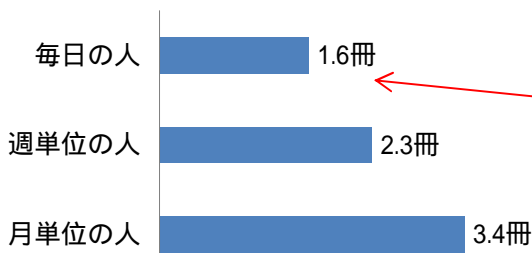


上記全国のデータは「ミレー、読み聞かせレポート2009」日本公文教育研究会より

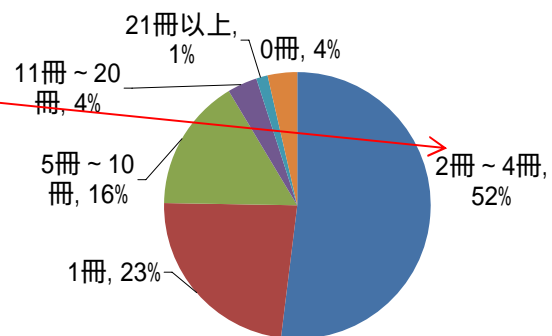
本市家庭での読み聞かせ【取組平均冊数】



【全体】本市の読み聞かせ取組平均冊数

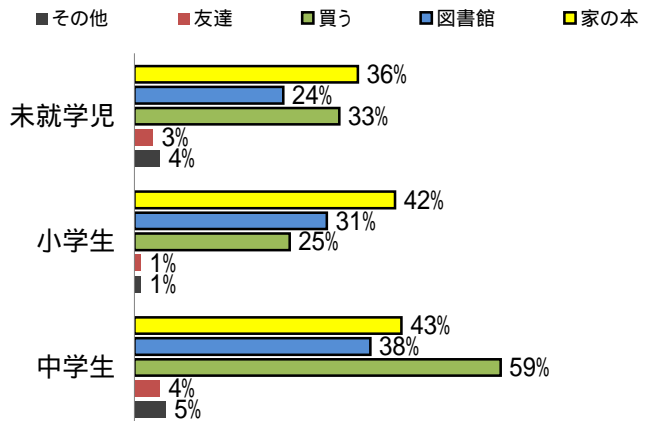


【全国】1日の読み聞かせ取組平均冊数

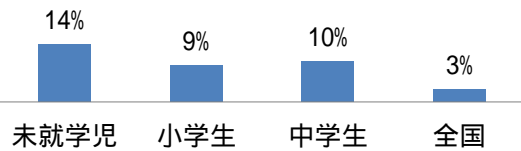


全国においては、毎日の部分しかない状況。半数が2冊～4冊を読み聞かせを行っている回答に対し、本市においては未就学児【取組中】の毎日がこの範囲に入っている。

読み聞かせ本の入手する(した)方法

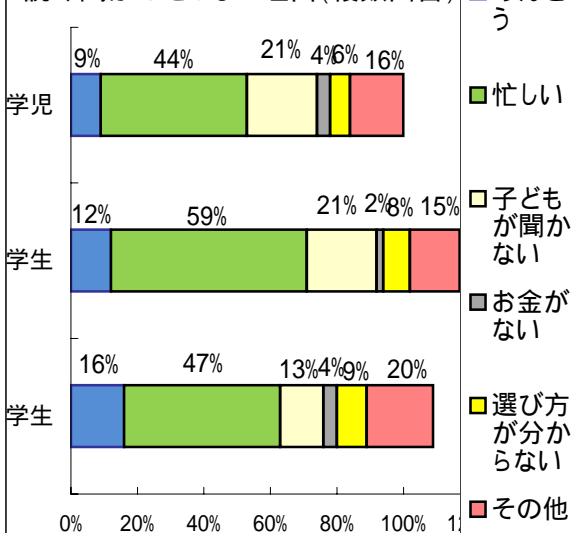


読み聞かせしていない・したことがない



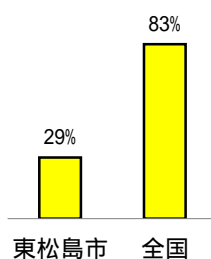
全国平均をそれぞれ上回る結果となり、未就学児は4倍、小中学生は3倍程度の結果となった。

読み聞かせをしない理由(複数回答)

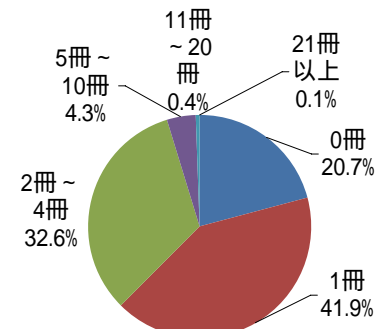


未就学児の読み聞かせ本の入手方法が小中学生の世代より減少結果となった。図書館の活用においては約1/3程度と少ない結果が出た。

読み聞かせに図書館を活用

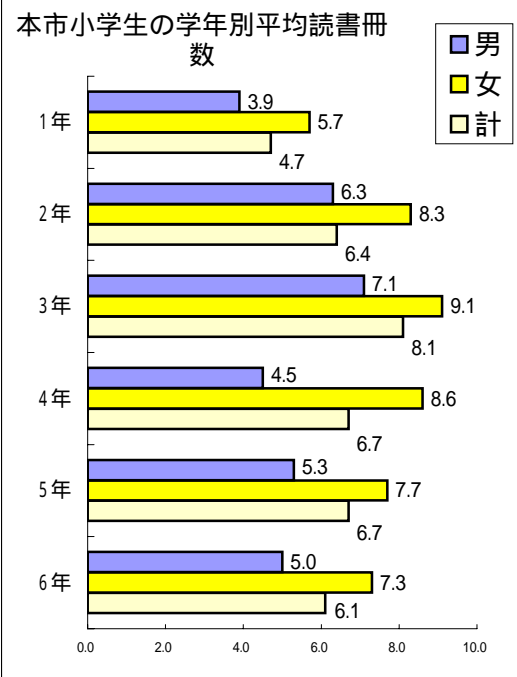


【全国】読み聞かせ本の1カ月あたりの購入冊数



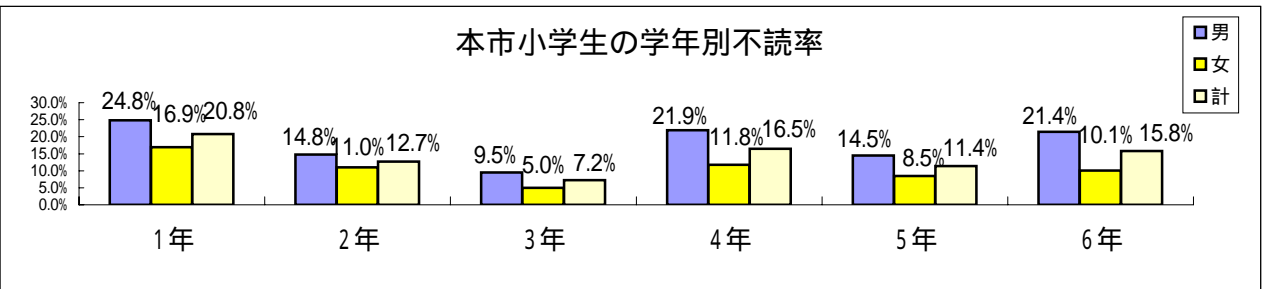
上記全国のデータは「ミミテ」読み聞かせレポート2009、日本公文教育研究会より

(2) 児童生徒の読書活動の状況について
イ 小学生の読書活動の状況について

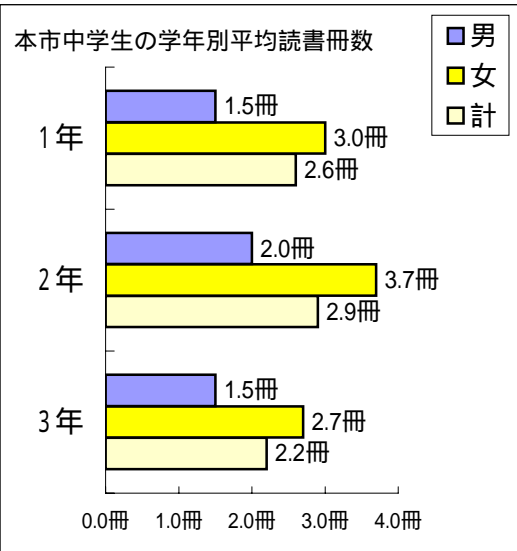


小学生	東松島市		宮城県		全国	
	平均読書冊数	不読率	平均読書冊数	不読率	平均読書冊数	不読率
H15	-	-	5.4冊	17.7%	8.0冊	9.3%
H16	-	-	6.1冊	12.9%	7.7冊	7.0%
H17	-	-	7.3冊	12.2%	7.7冊	5.9%
H18	-	-	9.1冊	8.5%	9.7冊	6.0%
H19	-	-	8.0冊	8.2%	9.4冊	4.5%
H20	-	-	10.4冊	4.5%	11.4冊	5.0%
H21	-	-	8.1冊	7.9%	8.6冊	5.4%
H22	6.5冊	14.1%				

本市における小学生の平均読書冊数は、県内・全国より低い水準であった。また、不読率は県内・全国を大きく上回り高い状態であり、特に1年生が高い状態である。また、全国でも同様に見られる男子が読書に対する取組みが低い状況は当市においても同様の結果となった。学年別に見ていくと、1年生の読書に対する定着が低い。一方で3年生の部分においては、読書冊数が県平均に達し不読が平均以下となった。る児童、しない児童(男女・学年)の二極化が進んでいる事が伺える。

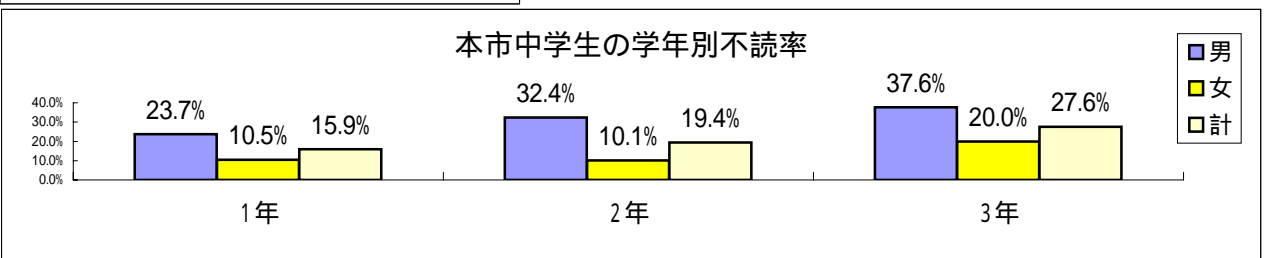


ロ 中学生の読書活動の状況について

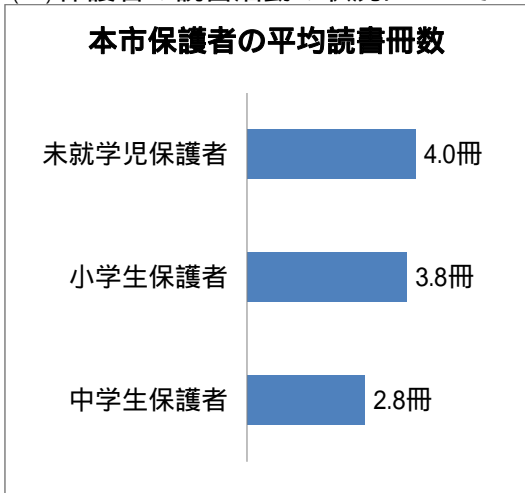


中学生	東松島市		宮城県		全国	
	平均読書冊数	不読率	平均読書冊数	不読率	平均読書冊数	不読率
H15	-	-	2.7冊	19.9%	2.8冊	31.9%
H16	-	-	3.0冊	28.2%	3.3冊	18.8%
H17	-	-	2.4冊	18.3%	2.9冊	24.6%
H18	-	-	2.8冊	19.9%	2.8冊	22.7%
H19	-	-	3.7冊	13.4%	3.4冊	14.6%
H20	-	-	4.0冊	16.1%	3.9冊	14.7%
H21	-	-	3.9冊	20.2%	3.7冊	13.2%
H22	2.7冊	20.6%				

本市における中学生の平均読書冊数は県平均の平成15年度の状況となった。学年・男女別に見ていくと、女子は読書への取組みが行われ、県平均より不読が低い状況である。一方で男子はいずれの学年も取組みが低く不読も高い結果となった。

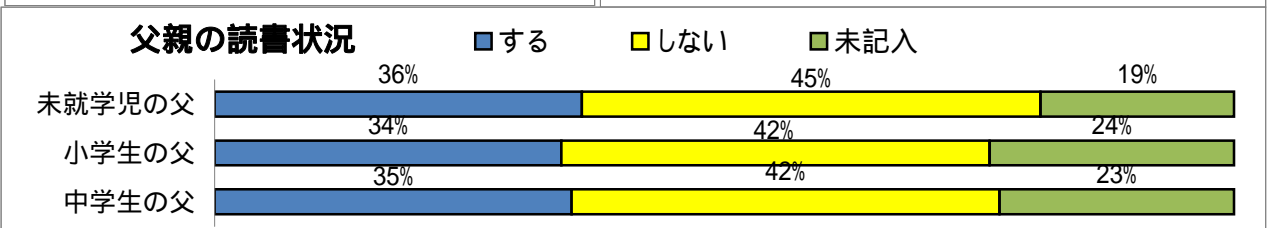
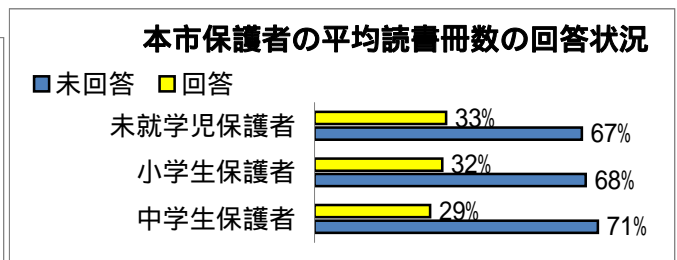
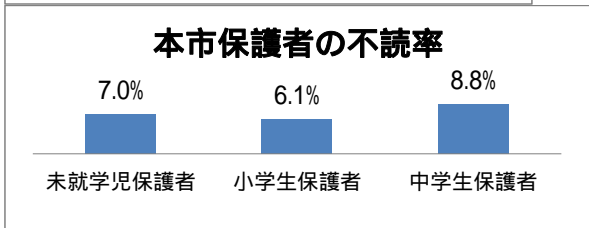


(3) 保護者の読書活動の状況について



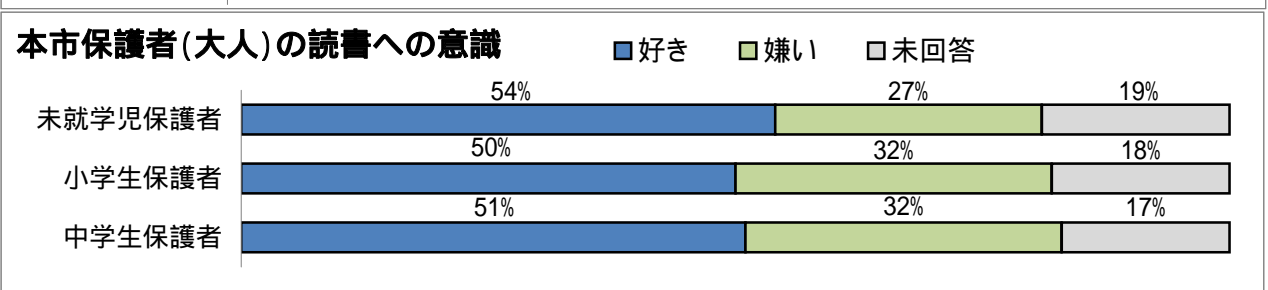
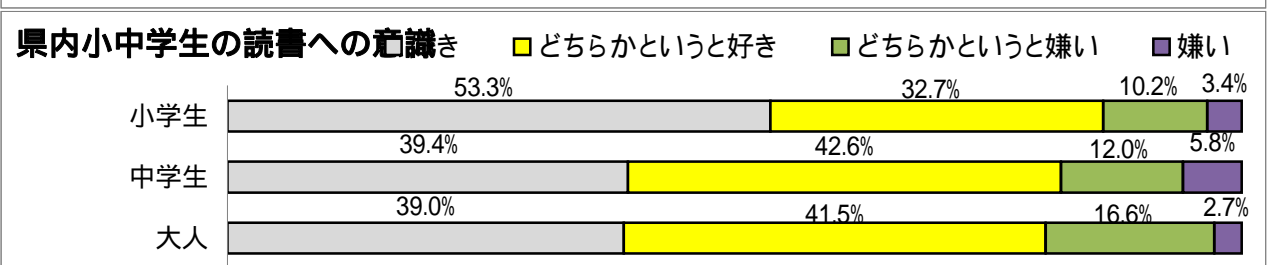
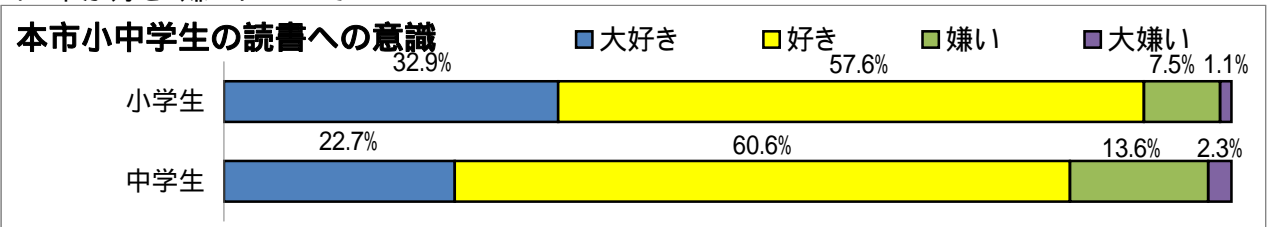
保護者	東松島市		宮城県		全国	
	平均読書冊数	不読率	平均読書冊数	不読率	平均読書冊数	不読率
H15	-	-	1.9冊	42.5%	1.0冊	42.0%
H16	-	-	1.6冊	42.9%	1.2冊	47.0%
H17	-	-	1.6冊	42.2%	1.2冊	47.0%
H18	-	-	2.0冊	40.4%	1.3冊	45.0%
H19	-	-	1.8冊	42.2%	1.3冊	34.0%
H20	-	-	1.8冊	39.9%	1.3冊	43.0%
H21	-	-	1.9冊	43.0%		
H22	3.6冊	7.0%				

保護者の読書冊数記入欄が今回非常に空欄が多く全体の70%となり、読書に取り組んでいる保護者と見られる981人の回答をまとめ上記の結果となった。



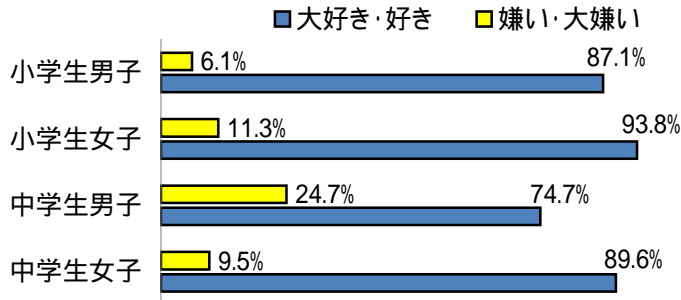
(4) 読書への意識

イ 本が好き・嫌いについて



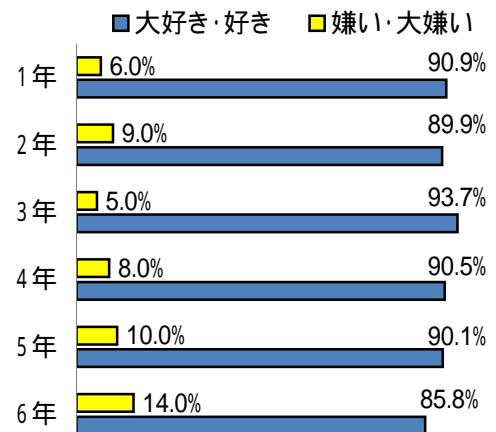
小中学生において県内と本市を比較した場合、好きという部類では、いずれも本市が高い結果となった。また、保護者(成人)では本市においては好きの割合が低く嫌いが高い数字となってしまった。

本市小中学生・男女別【読書への意識】



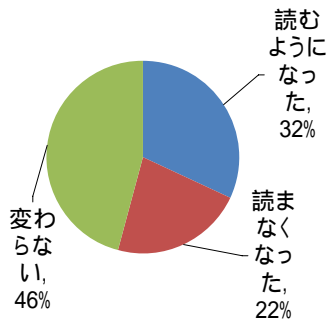
学年を追うごとに、読書の大好き・好きが減る傾向結果となった男女別では、女子が本が好きが多い結果となった。

本市小学生・学年別【読書への意識】

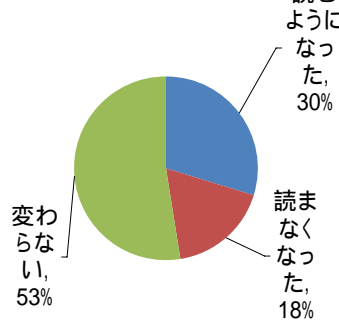


□ 去年と今年の読書の意識比較

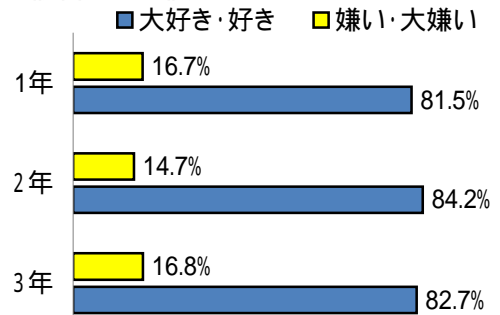
【小学生】



【中学生】



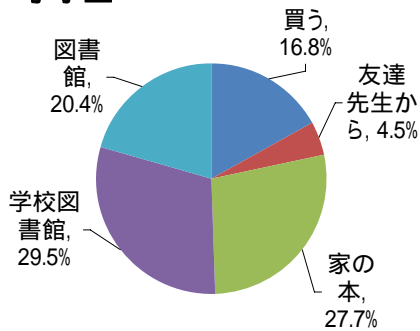
本市中学生・学年別【読書への意識】



小中学生とも、読書への取組が昨年と比較して変わらない意見が多い結果となり、中学では半数を占めた。また、中学生になると「読むようになった」が減った結果となった。

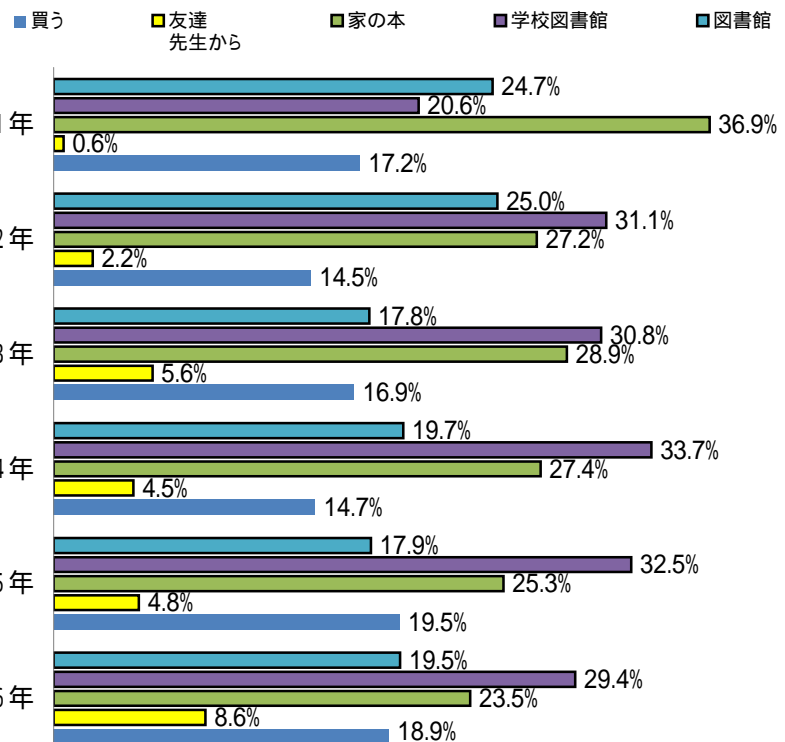
(5) 読書への行為 イ 小学生【入手方法】

小学生

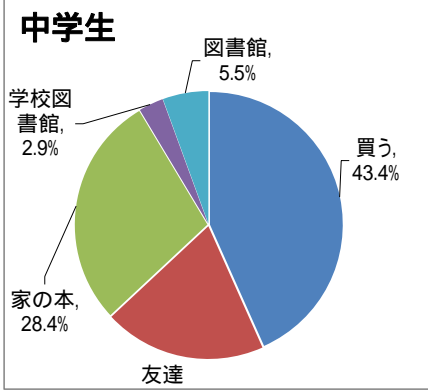


小学生については半数が、学校図書館と図書館を利用して読書をしていることが分かった。特に学年を重ねるごとに4年生をピークに学校図書館から本を入手していた。ただし、小学1年生においては学校図書館の利用ができないところがあり家の本で読書がトップとなった。このことから、身近にある本で読書をするということが裏付けられている。

小学生【学年別】

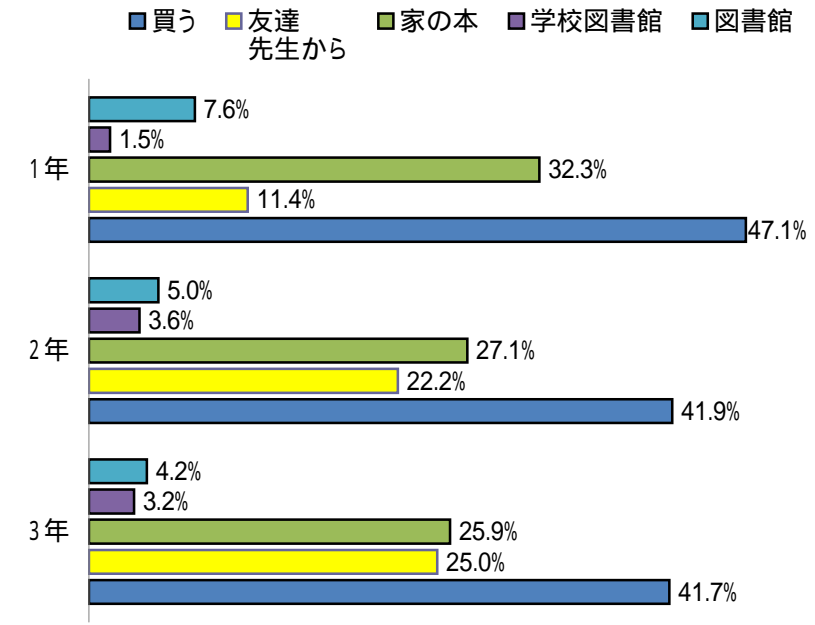


ロ 中学生【入手方法】

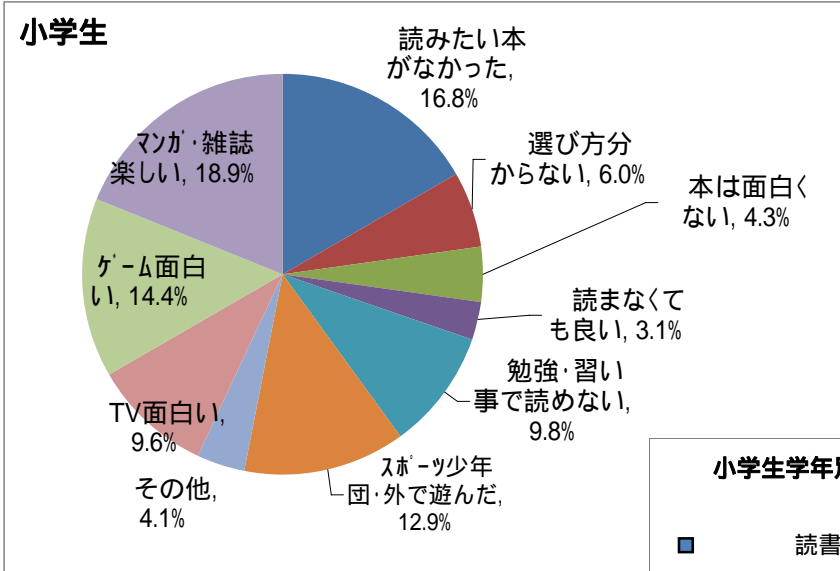


小学生と違って、学校図書館、図書館から本を手が減っていることが分かった。買う・家の本7割を占める結果となった。全体的に不読が高い傾向から((2)児童生徒の読書活動の状況参照)読書へのアプローチが必要と考えられる。

中学生【学年別】



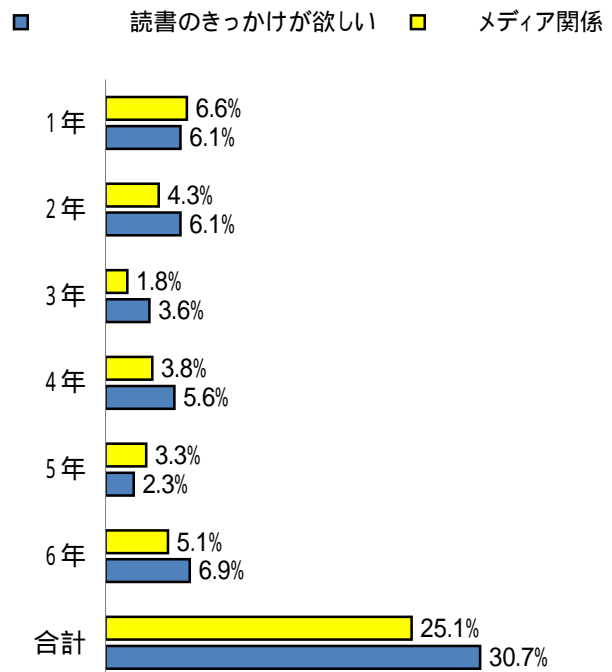
ハ 小学生【不読・0冊の理由】



の本への選び方や苦手意識の固定概念を持った回答では児童が30.2%。テレビやテレビゲームのメディア優先の児童が33.3%の結果となった。

学年別にみた場合が少なく、で読書活動も盛んな学年は3年生で((2)児童生徒の読書活動の状況について「本市学年別平均読書冊数」参照)、のメディアの興味も低い結

小学生学年別【回答取りまとめピックアップ】

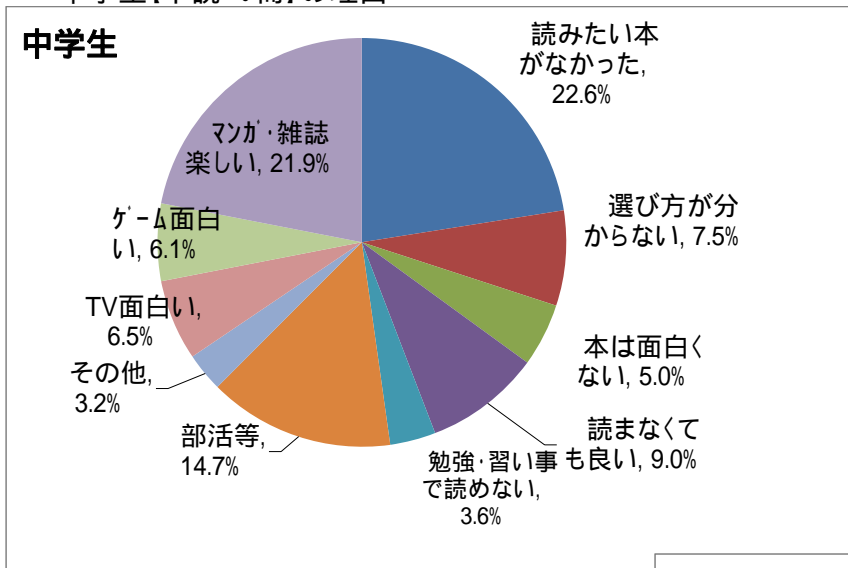


小学生【不読・0冊】の各学年の実数

	読みたい本がない	選び方が分からない	勉強・習い事で読めない	スポーツ少年団・外で遊んだ	その他	本面白くない	読まなくても良い	TV面白い	ゲーム面白い	マンガ・雑誌楽しい	合計
1年	12	8	4	11	8	2	2	10	16	17	90
2年	13	6	3	5	2	3	2	9	8	9	60
3年	9	1	6	5	1	3	1	5	2	3	36
4年	14	5	14	11	2	1	2	3	12	15	79
5年	5	1	1	2	0	2	1	2	11	7	32
6年	14	3	6	17	3	6	4	9	11	21	94
計	67	24	34	51	16	17	12	38	60	72	391
順位	2位	7位	6位	4位	9位	8位	10位	5位	3位	1位	

複数回答可

二 中学生【不読・0冊】の理由



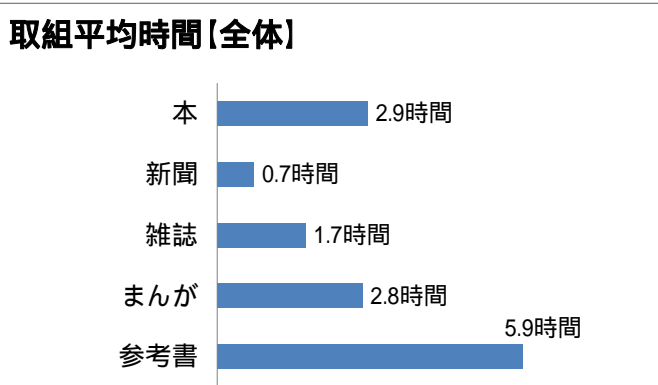
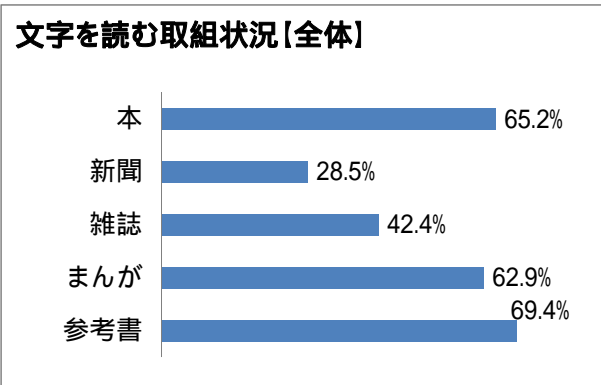
この本への選び方や苦手意識は小学生より13.9%高くなって、44.1%の結果となった。一方でメディアの関係が、小学生と比べて20.7%減となり、12.6%となった。各学年において、1位が「読みたい本がない」となっており、これは小学生の各学年でも上位の結果となった。このことから、本に対する関心事のアプローチがいかに大切かがここから分かる。

中学生【不読・0冊】の各学年の実数

	読みたい本がない	読む方が分からない	勉強・習い事で読めない	部活など	その他	本面白くない	読んでも良い	TV面白い	ゲーム面白い	マンガ・雑誌楽しい	合計
1年	16	3	3	12	2	1	3	4	4	14	62
2年	26	9	1	10	5	9	11	6	4	26	107
3年	21	9	6	19	2	4	11	8	9	21	110
計	63	21	10	41	9	14	25	18	17	61	279
順位	1位	5位	9位	3位	10位	8位	4位	6位	7位	2位	

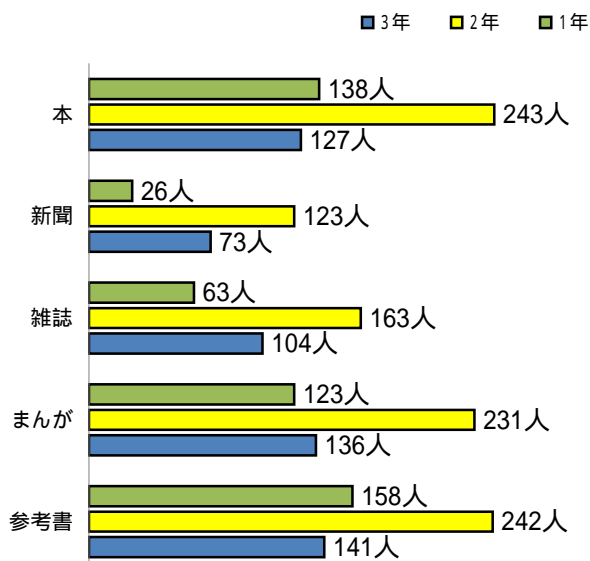
複数回答可

ホ 中学生の文字を読む行為【状況】
【5月中で1週間で文字を読んだか調査】

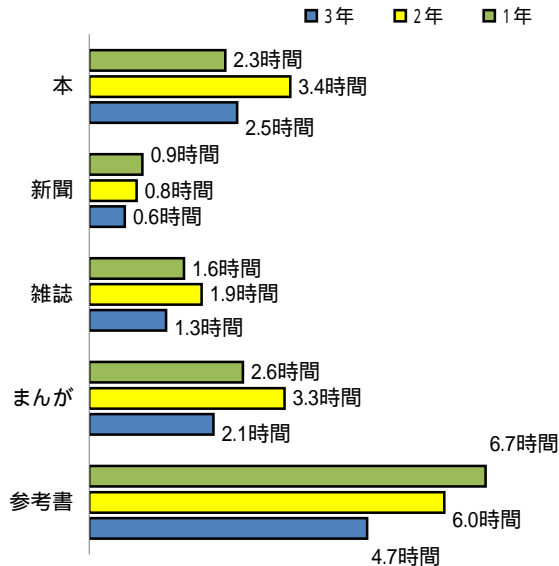


学年別文字 を読む行為 者数・平均 取組時間	0冊					読書した人					全体				
	本	新聞	雑誌	まんが	参考書	本	新聞	雑誌	まんが	参考書	本	新聞	雑誌	まんが	参考書
1年	6	6	6	21	31	132	20	57	102	127	138	26	63	123	158
	3	0.4	1.6	2.7	5.3	2	1.5	1	2.1	5.9	2.3	0.9	1.6	2.6	6.7
2年	9	15	25	37	35	234	108	138	194	207	243	123	163	231	242
	1.8	1	1.6	2.8	5.5	3.6	1.5	3	4.6	8.9	3.4	0.8	1.9	3.3	6
3年	5	23	33	38	38	122	50	71	98	103	127	73	104	136	141
	1	0.5	1.7	1.9	5	2.6	0.6	1.2	2.1	4.5	2.5	0.6	1.3	2.1	4.7

中学生・文字を読む取組状況【学年別】



中学生・取組平均時間【学年別】

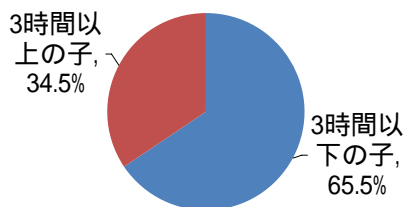


文字を読む取組傾向として、1冊には及ばなかったが、この1ヶ月間に取組んだ中学生が328人(複数回答・述べ人数)いた。また、中学生の中で2年生が、読書平均冊数((2)児童生徒の読書活動の状況参照)読書活動も高く、文字を読む(まんが・雑誌も含め)という取組人数、平均時間が高い結果がでた。このことから、情報収集力(新聞・雑誌)、娯楽性・探究心(まんが、雑誌)、向学心(参考書)が積極的に文字から収集するという行為がされ、結果として本の取組も高くなっているのではないかと考えられる。

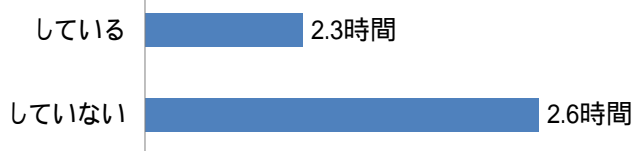
7 テレビの視聴時間・読書との関係

イ 未就学児 テレビの視聴時間・読書との関係

未就学児のテレビ視聴時間の割合

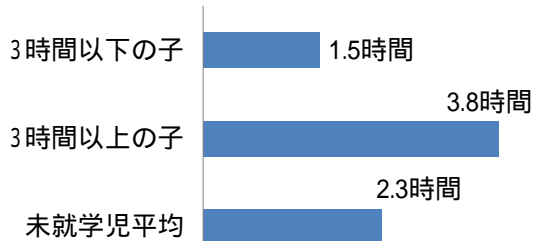


読み聞かせをしている・していない家庭 未就学児テレビ平均視聴時間



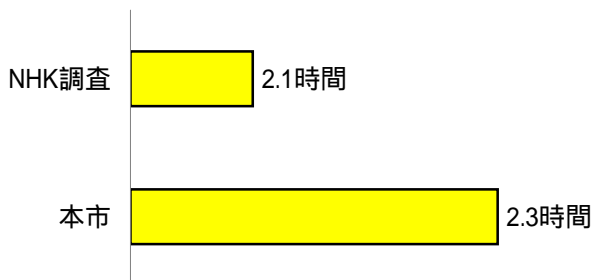
読み聞かせをしている家庭はテレビの視聴時間が約20分程度短い結果となった。

未就学児のテレビ平均視聴時間



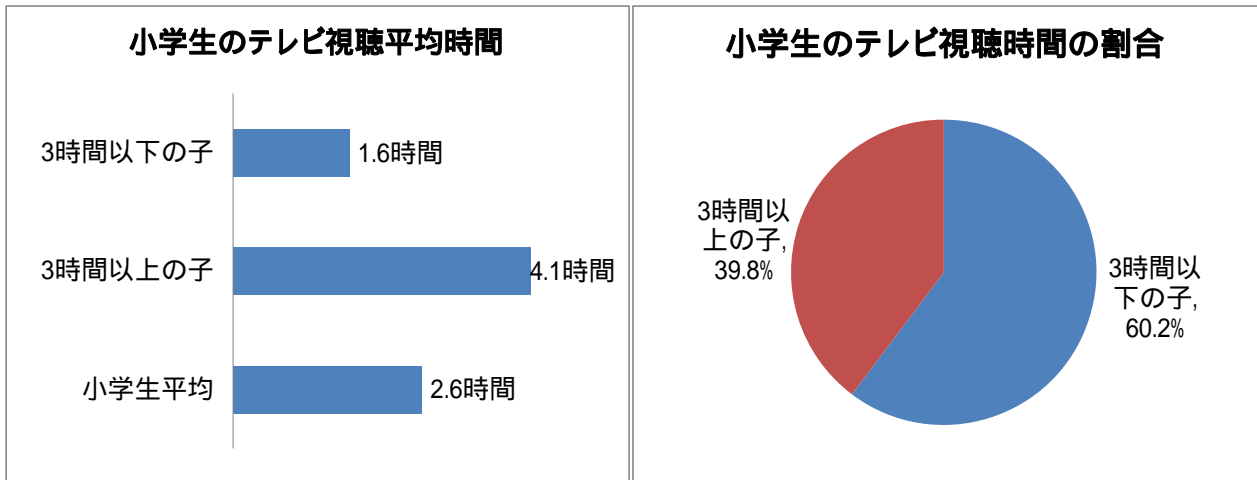
本市の未就学児において3時間以下が65.5%と少ない結果となった。一方で、3時間以上と以下において、テレビの平均視聴時間を見ると、3時間以上視聴の子は3時間以下の2倍以上の長時間視聴の結果となった。

NHK調査と本市のテレビ平均 視聴時間比較



NHKによる平成22年6月に東京30⁺圏において調査した「幼児視聴率調査」(2歳~6歳)のテレビの平均視聴時間が2時間5分に対して、本市の未就学児は2時間20分と、0.2時間視聴時間が長い結果となった。

ロ 小学生 テレビの視聴時間・読書との関係



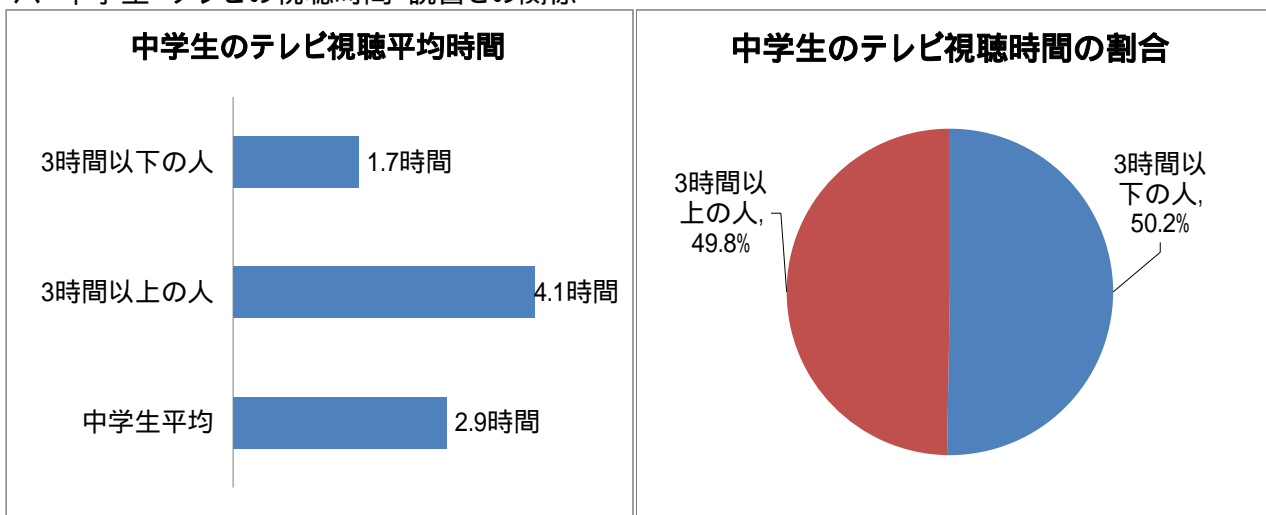
未就学児より、平均時間、3時間以上と以下のテレビの視聴時間において伸びている結果となった。また、3時間以上視聴の割合も5.3%増え39.8%となった。また、3時間以上と以下の視聴時間に差が出て、2極化の傾向がある。

小学生の各学年におけるテレビの視聴時間

	視聴平均時間	男子	女子
1年	2.2時間	2.4時間	2.1時間
2年	2.2時間	2.4時間	2.0時間
3年	2.5時間	2.7時間	2.3時間
4年	2.6時間	2.2時間	2.9時間
5年	3.0時間	3.2時間	2.9時間
6年	3.0時間	3.1時間	3.0時間
小学生	2.6時間	2.7時間	2.5時間

小学生において各学年に見ていった場合、平均視聴時間が学年が上がるごとに長時間化している。また、全体的に、男子がテレビの視聴時間が長い傾向にある。一方で、(2)児童生徒の読書活動の状況において、女子は読書への取組(読書冊数)が多い状況となっている。

ハ 中学生 テレビの視聴時間・読書との関係



小学生とそれぞれ比較を行うと、3時間以下平均視聴時間が1.6時間に対し、中学生は1.7時間と0.1時間増えた。また、3時間以上の平均時間は変化がなかった。また、中学生の平均視聴時間は、0.3時間増えた。

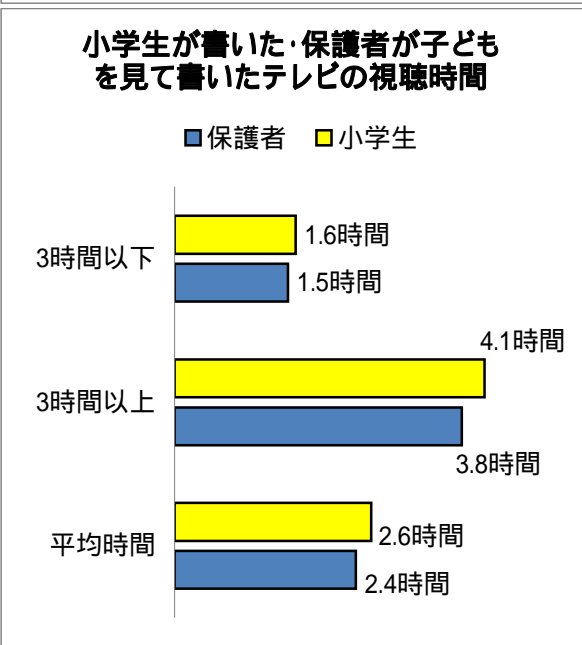
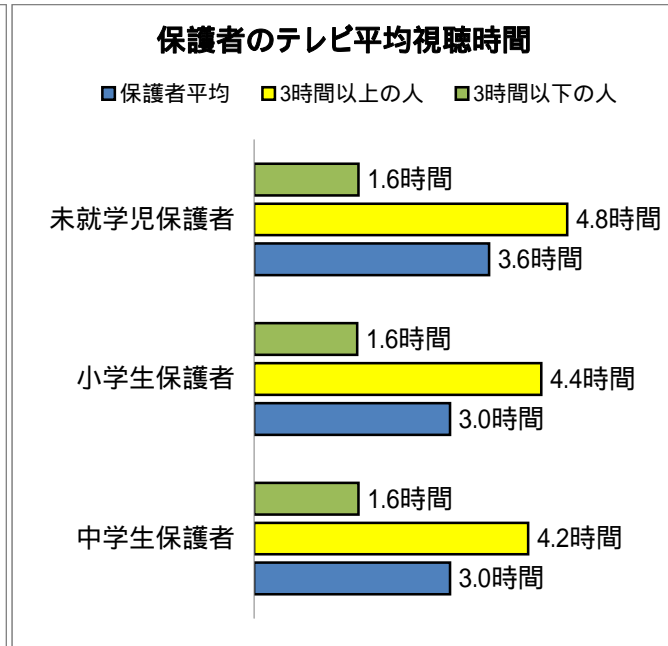
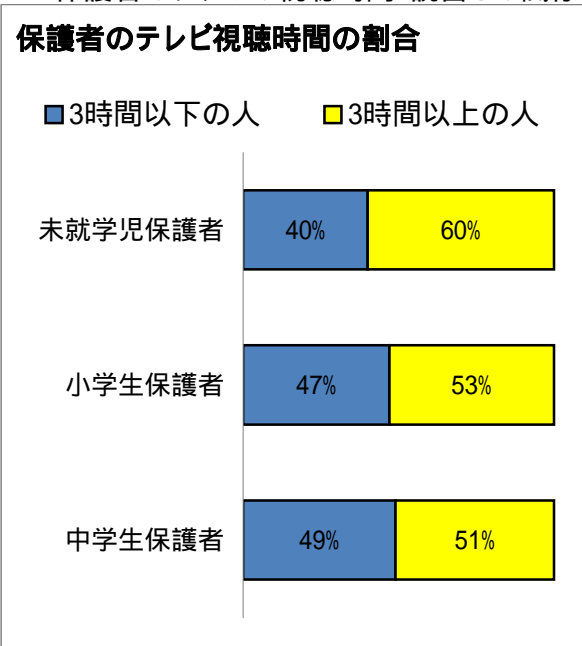
テレビ視聴時間の割合は3時間以上が、小学生と比べて10%増えた。小学生の2極化の傾向とは違い、平均して視聴する傾向が見られる。

中学生の各学年におけるテレビの視聴時間

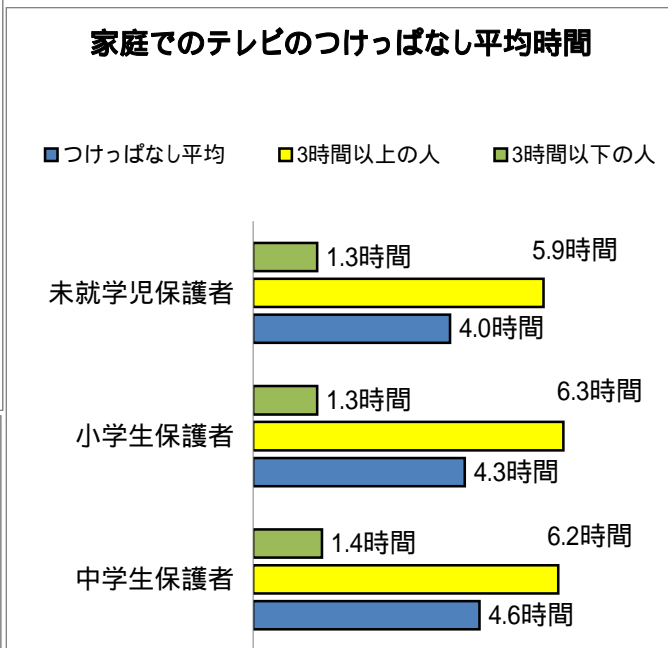
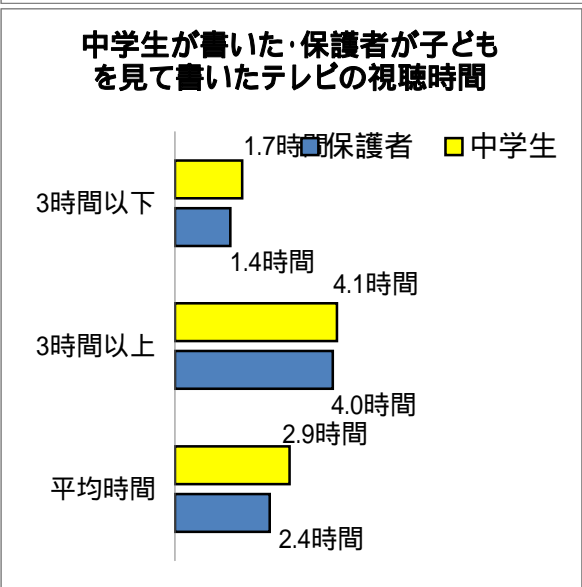
	視聴平均時間	男子	女子
1年	2.8時間	2.7時間	2.8時間
2年	3.0時間	3.1時間	2.9時間
3年	2.7時間	2.6時間	2.8時間
中学生	2.9時間	2.9時間	2.8時間

学年別においては、2年生の視聴時間がトップとなった。一方で2年生を除いて、中学生は女子の視聴時間が男子を上回った結果となった。

二 保護者のテレビの視聴時間・読書との関係



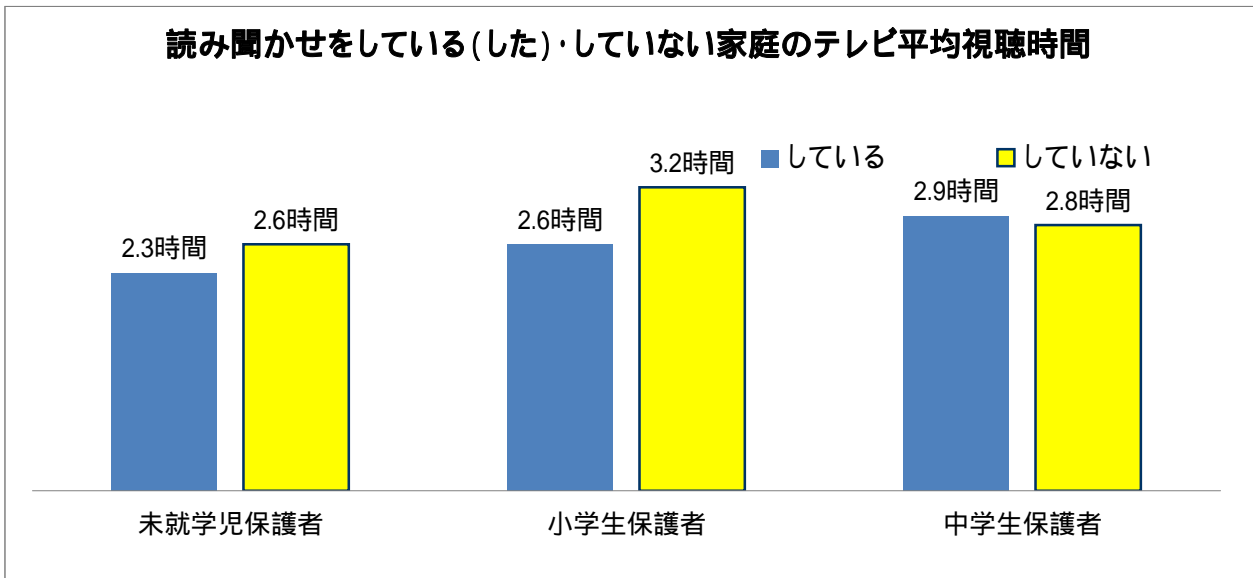
「日本人とテレビ2010」調査結果の要約(NHK)によると、1990年以降「2時間以上」の人が減る一方で、「4時間以上」の人が増え、全体として長時間化している傾向結果が報告されている。このことを踏まえると、それぞれの保護者において、上記2つのグラフをみると同様の傾向が見える。



視聴平均時間が全体で約3時間(上記のグラフ参照)、と家庭でのつけっぱなしの平均時間の約4時間を見ていくと本市の家庭において約7時間テレビが1日の家庭の中でついていることが分かった。

また、小学生・中学生がそれぞれ書いた視聴時間と保護者が見た子どもの視聴時間には保護者が子どもを見ている以上にテレビを見ている結果がでた。

読み聞かせをしている(した)・していない家庭のテレビ平均視聴時間



家庭での親子での時間のあり方において、見た場合に読み聞かせをしている(した)家庭としていない家庭では、視聴時間が未就学児・小学生・中学生のそれぞれの世代で、テレビの視聴時間が短い結果となった。